

富士山静岡空港の収支試算結果

1 空港管理運営に係る収支

平成 26 年度は旅客ターミナルビルを県有化したことに伴い、空港基本施設と旅客ターミナルビルの一元的な管理運営に係る収支を試算している。

(単位:千円)

| 区 分 | 平成 26 年度 a | 平成 25 年度 b | 差引額(a-b) | 増減率(%) |
|-----|------------|------------|----------|--------|
| 収 入 | 229,144 | 146,920 | 82,224 | 56.0 |
| 支 出 | 726,603 | 664,488 | 62,115 | 9.3 |
| 収 支 | △497,459 | △517,568 | 20,109 | 3.9 |

収支増減の主な要因：支出が滑走路等の施設の点検・補修などで増加した一方で、収入は旅客ターミナルビル等を県有化したことに伴う利用料金納入金等が増加したことなどにより、収支は約 2 千万円、対前年度比 3.9%改善した。

2 空港管理運営及び空港整備に係る企業会計の考え方を取り入れた収支

空港は利潤を追求する一般企業とその性格は異なるものの、空港施設を企業が運営したとすればどの様な収支となるかといった視点で分析し、その収支を試算している。

(単位:千円)

| 区 分 | 平成 26 年度 a | 平成 25 年度 b | 差引額(a-b) | 増減率(%) |
|------------|------------|------------|----------|--------|
| 営業収益＋営業外収益 | 300,024 | 216,252 | 83,772 | 38.7 |
| 営業費用＋営業外費用 | 2,110,363 | 1,917,558 | 192,805 | 10.1 |
| 経常損益 | △1,810,339 | △1,701,306 | △109,033 | △6.4 |

経常損益増減の主な要因：旅客ターミナルビルの県有化に伴い利用料金納入金等の収入が増加した一方で、滑走路等の施設点検・補修費、旅客ターミナルビル等の改修・増築工事に係る設計費及び減価償却費等の費用が増加したことなどにより、経常損益は約 1 億 9 百万円、6.4%悪化した。

(参考) 県及び富士山静岡空港株の収支を合わせた EBITDA*

投資家等が企業分析をする際に使用される指標のひとつである EBITDA を用いて、県の企業会計の考え方を取り入れた収支と富士山静岡空港株の収支を合算した結果は次のとおり。

(単位:百万円)

| 区分 | 県 | 富士山静岡空港株 | 合計 |
|--------|---------|----------|---------|
| EBITDA | △ 6 0 2 | 3 9 2 | △ 2 1 0 |

※EBITDA：「Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization (利払前税引前償却前営業利益) ≡ 経常損益＋支払利息＋減価償却費－航空機燃料譲与税－地方交付税相当額」。平成 23 年度に開催された国の「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。